Iwakuni Clinical center News

# 岩国医療センターだより

2026年11・12月号 VOL.168　ご自由にお持ちください。

## DMAT隊

令和８年熊本地震への支援活動 出発時の様子





## 医療班

もくじ


② 特集：乳腺外科の紹介

④【薬剤部だより】
そのお薬、患者さんに届くまで
～薬剤部の「見えない仕事」をご紹介します～

⑤【リハビリだより】
ちょっと分かりにくいリハビリ!?
「作業療法」について

⑥【看護部だより】
7階西病棟 ～専門性の高い看護と多職種連携で患者さんを支えます～

⑦ インフォメーション
認定看護師の紹介、看護師特定行為研修入講式、「市民公開講座・ほっとサロン虹・日本医療マネジメント学会開催」のご案内

⑧ 令和8年熊本地震における支援活動


独立行政法人国立病院機構
岩国医療センター
発行・制作：広報委員会

〒740-8510 山口県岩国市愛宕町１丁目１番１号
TEL 0827-34-1000／FAX 0827-35-5600
岩国医療センター 検索 https://iwakuni.hosp.go.jp

特集

# 乳腺外科の紹介



記：乳腺外科医長　荒田 尚

日本外科学会 外科認定医・外科専門医
日本乳癌学会 乳腺専門医
マンモグラフィー検診精度
管理中央委員会 読影医
日本 DMAT 隊員




左：荒田医長、
右：鳩野医師

2026年 4月、岩国医療センターの診療部門に29番目の診療科として乳腺外科が加わりました。これまで外科の乳腺グループとして乳がん診療に従事してきましたが、2022年 4月鳩野医師の着任に伴い乳腺専門医 2人体制となって以降準備を進め、このたび乳腺外科を標榜することとなりました。

どちらも岩国出身とあって、地元の乳がん患者さんに都市部に引けを取らない水準の診療を受けてもらいたいとの強い思いを持っています。

## 乳腺外科開設のメリット

乳腺外科開設は患者さんに 2 つの大きなメリットをもたらすと考えています。ひとつは、乳房の病気を心配されている皆さんが受診し易くなった点です。標榜科名に乳腺の文字が入っていることで受診先がわかり易くなり、手術日を月曜日に限定した結果、火曜日～金曜日の受診枠も増えました。当初、乳腺科とする案もありましたが､2 人とも出自である外科に軸足を置いているため、乳腺外科を選びました。

話を戻し、もうひとつは安心して専門科による診療を受けてもらえる点です。特に遺伝性腫瘍専門医でもある鳩野医師は、遺伝性乳がんの診療も得意としています。医療者側の視点に切り替えると、近隣医療機関の皆さまにとっては紹介先がわかり易くなり、予約をとり易くなり、大切な患者さんをより安心して任せられるようになるのではと期待しています。

## 乳がん患者さんの動向

岩国医療圏の人口は 2025年の国勢調査で12 万 5,055 人と、2020 年の前回調査から 1 万 104 人減少しました。全国より 10 年先行しているとされる高齢化率（年内公表予定）も気になるところですが、乳がん患者さんの動向に限って話を進めます。

岩国医療センターに通院可能なエリアとして柳井医療圏や広島西医療圏の一部も含めると、毎年 120 ～ 130 人が新たに乳がんを発症している計算になります。当院の新規乳がん患者さんは年間 90 人前後（ステージ 4 も含む）と増加してきたものの、依然、広島方面に流出している患者さんが一定数いるものと推測されます。専門医の数で診療レベルを論じるのはいささか乱暴ですが、山口県 11 名に対して広島県 48 名と、県内の乳腺専門医が圧倒的に少ないのは間違いありません。患者さん、近隣医療機関の皆さまの信頼を得られるよう、岩国医療センターで標準的な乳がん治療を受けられることを発信していかねばと考えています。

## 乳腺外科の診療

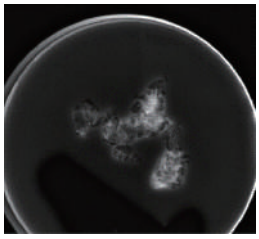
乳腺外科医は、手術適応がある患者さんでは診断から手術、補助療法を経て終診をむかえるまで、また転移・再発乳がん患者さんでは薬物療法や緩和ケアを一貫して担当します。

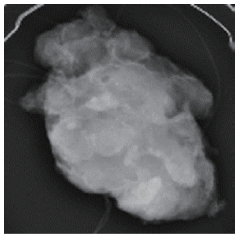
当院乳腺外科の特色をいくつかご紹介します。乳がん患者さんの多くはしこりを主訴に受診され、経皮的針生検で診断が確定します。時にしこりを触れない、乳房微細石灰化を契機として乳がんと診断されるケースを経験します。乳房微細石灰化を採取する手段としてステレオ

ガイド下吸引式組織生検があり、従来の切除による診断と比較し低侵襲となります。山口県東部では岩国医療センターでしか受けられない検査です。

【微細石灰化を含む組織の標本】

ステレオガイド下吸引式
組織生検で採取





従来の切除生検で採取

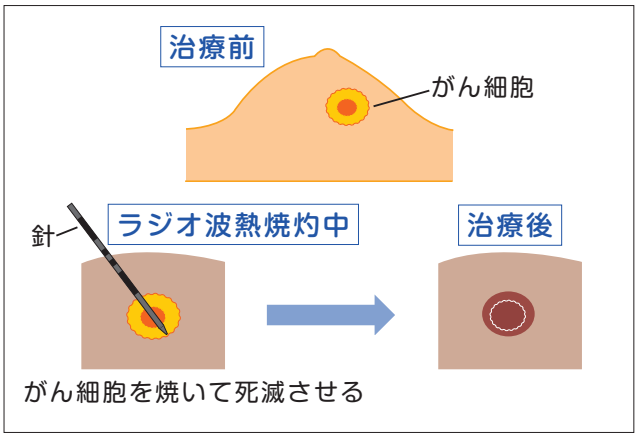
**ステレオガイド下吸引式組織生検**

- 少ない組織量で診断できる
- 手術瘢痕が残らない

術式に関しては、高齢化の進んだ土地柄が影響し、乳房温存率が低い傾向がみられます。ただし、乳房全切除術を選択せざるを得ないケースでは積極的に乳房再建を提案するよう心掛けています。昨年は形成外科と合同して10件の乳房再建術を経験しました。顕微鏡下血管吻合を要す、深下腹壁動静脈穿通枝皮弁を用いた高難度の乳房再建術は1件でした。

また、乳房にメスを入れない局所治療としてラジオ波焼灼療法をおこなえるのも当院の特色のひとつです。現時点では乳房温存手術のオプションとして位置付けられており、県下では当院を含め4施設が承認されています。

【ラジオ波焼灼療法】

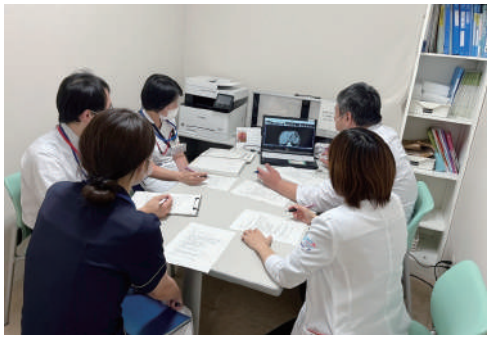



## 乳腺外科の取り組み

### チーム医療

乳腺外科はチーム医療にも取り組んでいます。告知や治療方針を決定する診察にはがん認定看護師や緩和ケア認定看護師に同席してもらっています。必要に応じて心理療法士、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、栄養士に介入を依頼することもあります。

【カンファレンス風景】



特に転移・再発乳がん患者さんや妊孕性（妊娠するために必要な能力）が関わってくる若年の乳がん患者さんの診療にあたっては、アドバンス・ケア・プランニング※1という手法を用いて、患者さんの意思決定をチームでサポートしています。

※1…将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療、療養について患者、家族とあらかじめ話し合うプロセス

### 研修医・専攻医の教育

研修医、専攻医に対する教育も乳腺外科の重要な役割のひとつです。岩国医療センターは岡山大学広域外科専門研修プログラム、岡山大学広域乳腺外科専門カリキュラムに参加しており、外科専門医、乳腺外科専門医の育成に力を入れています。初期研修から4年間在籍した野坂医師は、今年4月乳腺専門医取得を目指し岩国から羽ばたいていきました。

また、9月には乳腺外科医を志す医学生の病院見学があり、当科にとって初めての経験でした。乳腺外科研修に興味がある医学生、研修医の皆さまは気軽にご相談ください。




### これから

岩国医療センター乳腺外科を開設して半年あまりが過ぎ、これまで滞りなく診療をおこなえているものと考えます。受診していただいた患者さん、近隣医療機関の皆さまのご期待に沿えるよう、精一杯尽力いたします。

今後ともよろしくお願いします。

# そのお薬、患者さんに届くまで

## ～薬剤部の「見えない仕事」をご紹介します～



患者さんが診察を受け、お薬を受け取るまでの間、薬剤部ではさまざまな確認や準備を行っています。「処方された薬を準備するだけ」と思われがちな薬剤部ですが、実は、お薬が患者さんの手元に届くまでには、いくつもの確認があります。

今回は、普段はなかなか見ることのできない、薬剤部の仕事の一部をご紹介します。



薬剤部 副薬剤部長
宮川 貴行

## ① まずは「処方」を確認します

『薬剤師は、さまざまな視点から確認しています』

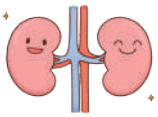
医師から出された処方をもとに、お薬の準備を始めます。
薬剤師が確認しているのは、薬の名前や量だけではありません。

### 薬 × 患者さんの状態

薬剤師は「薬」だけではなく、「患者さんの状態」と「薬」の関係を考えながら処方を確認しています。

気になる点があれば、処方した医師に確認し、必要に応じて処方内容の変更を提案することもあります。

### 薬×腎機能



腎臓の働きによって、薬の体内からの排泄が変わることがあります。
腎機能に応じて、薬の量や種類が適切か確認します。

### 薬×肝機能



肝臓で代謝される薬もあります。肝機能や患者さんの状態を考慮し、適切に使用できるか確認します。

### 薬×年齢



年齢によって薬の効き方や副作用の出やすさが変わることがあります。
特に高齢の患者さんでは注意して確認します。

### 薬×食事



薬によっては、食事によって効果に影響を受けるものがあります。食事との関係や服用するタイミングも確認します。

### 薬×検査値



血液検査などの結果から、薬の効果や副作用に注意が必要ではないか確認することもあります。

## ② お薬を準備します

処方内容の確認が終わったら、患者さん一人ひとりに合わせてお薬を調剤します。

錠剤、カプセル、粉薬、水剤など、薬の種類によって調剤方法はさまざまです。また、入院患者さんに使用する注射薬の準備も薬剤部の大切な仕事です。

### 調剤を支える機器を更新しました！

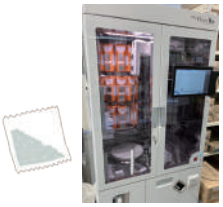
薬剤部では、これまで使用してきた調剤機器を更新しました。

#### 全自動錠剤分包機



錠剤を患者さんごとの服用方法に合わせて分包します。

#### 散剤調剤ロボット



粉薬の計量・調剤を行い、正確な調剤を支えます。

#### 注射薬自動払出システム



処方に応じた注射薬の取り揃えを支えます。

### でも、機械だけではありません

機器によって準備されたお薬も、最後は薬剤師が処方内容と照らし合わせて確認します。



薬の種類・数量・患者さん・用法などに間違いがないか、一つひとつ確認しています。

**機器によるサポート ＋ 薬剤師による確認**

この組み合わせで、安全な調剤につなげています。

## ③ 病棟でも、お薬を確認しています

入院中の患者さんについては、お薬を準備して終わりではありません。薬剤師が病棟で患者さんのお薬の使用状況や効果、副作用などを確認し、必要に応じて医師や看護師と情報を共有します。

患者さんの状態や治療内容が変われば、お薬の内容が変わることもあります。
その時々の患者さんの状態に合わせて、安全にお薬を使えるようサポートしています。



## 『見えないところで、安心を支えています』



患者さんからは見えない場所でも、薬剤師は一つひとつのお薬について確認を重ねています。「薬」だけではなく、「患者さん」を見ながら薬を考える。
それが、病院薬剤師の大切な仕事のひとつです。
これからも、薬剤師と調剤機器、それぞれの力を活かしながら、患者さんに安心してお薬を使っていただけるよう、安全な薬物療法を支えてまいります。



お薬について気になることがあれば、薬剤師にご相談ください

# ちょっと分かりにくいリハビリ!?「作業療法」について

リハビリテーション科
作業療法士長
長谷 宏明



## 「作業療法」とは？

理学療法は歩行練習や筋力訓練など、主に身体の基本的な動作能力の維持・改善を図ります。言語聴覚療法は「話す・聴く・食べる」といった機能を支援します。では、作業療法はどのようなリハビリを行うのでしょうか。「作業」とは、食事や着替え、家事、仕事、趣味、人との交流など、その人にとって価値を持つ「生活行為」を指します。作業療法では「人の手を借りずにトイレに行きたい」「料理を再開したい」「趣味を続けたい」など、一人ひとりの希望や困りごとを伺い、身体・認知機能の訓練や生活動作の練習、用具や環境調整などを組み合わせて、「生活のしやすさ」を支援しています。

## 認知機能も大切な治療対象

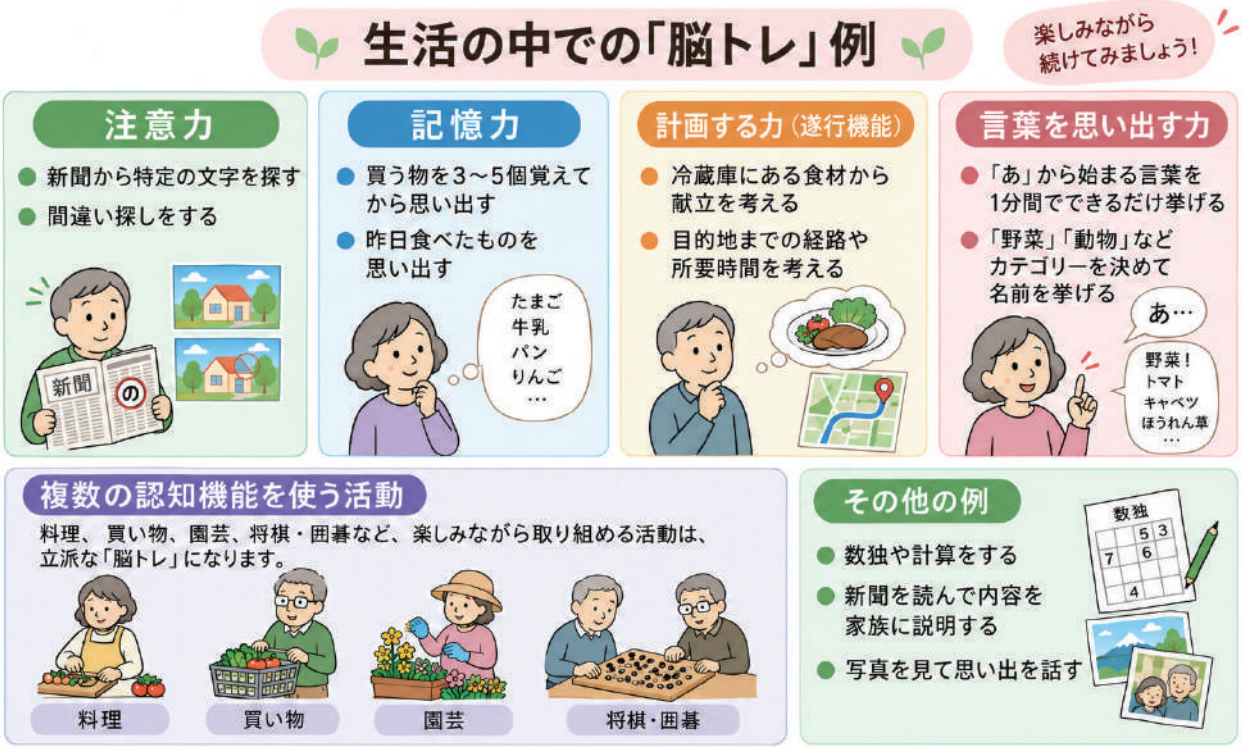
当院でリハビリテーションを受ける患者さんの平均年齢は約 80 歳です。入院による活動量や環境の変化は、注意力や集中力など（の認知機能）にも影響するため、作業療法では身体機能にあわせて認知機能にも働きかけます。例として「歩きながらしりとりをする」など、二つのことを同時に行う練習を「二重課題（デュアルタスク）」といいます。研究では、運動と認知課題を組み合わせた練習を継続することで、注意機能や遂行能力、歩行・バランス能力などの改善が期待できると報告されています。

## 生活の中で「脳トレ」を

認知機能への働きかけは、日常生活の中でもできます。例えば、注意力には新聞から特定の文字を探す、記憶力には買う物を 3 ～ 5 個覚えて思い出す、計画力には冷蔵庫の食材から献立を考える、言葉を思い出す力には「あ」から始まる言葉や「野菜」「動物」などをできるだけ挙げる、といった方法があります。料理や買い物、園芸、囲碁・将棋、クロスワード・数独なども、複数の認知機能を使う立派な「脳トレ」です。楽しみながら頭と身体を使う習慣を、生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。







# 7階西病棟

## 専門性の高い看護と多職種連携で患者さんを支えます



7階西病棟
看護師長
岡上 知香





7階西病棟は消化器内科病棟で、胃・大腸などの消化管疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患をもつ患者さんの入院治療と看護を行っています。内視鏡検査や治療を目的とした短期間の入院から、急性期治療、がんの化学療法、終末期ケアまで、幅広い患者さんを受け入れています。

消化器疾患の治療は、医師だけでなく多職種によるチーム医療が重要です。病棟では医師、薬剤師、栄養士、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカーなどと連携し、患者さんの治療と回復を支えています。特に、消化器がんの患者さんに対しては、治療中の症状緩和や生活支援、退院後を見据えた支援にも力を入れています。また、内視鏡治療を受ける患者さんへの検査説明や術後管理、化学療法による副作用への対応、肝疾患患者さんへの生活指導など、専門性を活かした看護を実践しています。近年では高齢化に伴い、複数の疾患を抱える患者さんも増えており、安全で質の高い看護を提供できるようスタッフ一同研鑽を重ねています。



また、私たちは、患者さんが大切にしていることや、これからどのように過ごしたいのかを一緒に考えるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）にも取り組んでいます。アドバンスケアプランニング（ACP）とは、将来、自分で意思を伝えるのが難しくなったときに備えて、どんな医療やケアを望むかを前もって考えて、家族や医療・介護の関係者と話し合っておくことです。
話し合う内容は、延命治療を受けたいかどうかだけではなく、大切にしたい生活、苦痛への考え方、誰に自分の意思を代わりに伝えてほしいかなどです。病気が進行したときにどのように過ごしたいか、どのように療養したいかなどを前もって周囲に伝えておくことが大事になります。

7階西病棟では、入院時に【私のこころづもり】を配布し、患者さんの思いを私たちも一緒に考えさせていただきます。さらに、医師からの治療方針の説明にも同席し、患者さんやご家族が納得して治療を受けられるよう支援しています。治療や今後の生活について不安があるときは、気軽に看護師にご相談ください。

7階西病棟では、「患者さんとご家族に寄り添う看護」を大切にし、一人ひとりの思いや生活背景を尊重しながら、その人らしい療養生活を支援しています。入院による不安や苦痛を少しでも軽減できるよう、看護師が患者さんの声に耳を傾け、安心して治療を受けられる環境づくりに努めています。

新人看護師からベテラン看護師までが協力し合い、明るく活気のある職場づくりを目指しています。患者さんの「治ってよかった」「安心して入院できた」という言葉を励みに、日々看護に取り組んでいます。



## インフォメーション

### 医師の異動

**2026年9月30日 退職**

| | |
|---|---|
| 耳鼻いんこう科医師 | 深澤 茉祐 |
| 消化器内科医師 | 原田 圭 |
| 婦人科医師 | 兼森 雅敏 |
| 婦人科レジデント | 尾﨑 いろは |
| 呼吸器内科レジデント | 緒方 裕理 |

**2026年10月1日 新任**

| | |
|---|---|
| 泌尿器科医師 | 中野 輝権 |
| 消化器内科医師 | 岡本 晃一 |
| 婦人科医師 | 樫原 佳穂 |
| 呼吸器内科医師 | 深津 愛祐美 |
| 耳鼻いんこう科レジデント | 山﨑 拓人 |
| 婦人科レジデント | 加藤 夕佳 |

第12回

# 認定看護師の紹介

今回は、緩和ケア認定看護師を紹介します。

緩和ケア認定看護師　新井美穂・寺戸純子

## 活動内容

私たちは、がんや末期腎不全の患者さんが抱える痛みや苦しみを軽減し、心身の負担を和らげるための専門的な看護を提供する資格をもつ看護師です。医師や看護師、多職種と連携し、患者さんと家族のニーズに沿ったケアを提供しています。

## 患者さんへのメッセージ

緩和ケアは、終末期だけでなく、病気の診断直後から身体的・精神的な苦痛緩和が行われることが推奨されています。

私たちは、現在緩和ケア病棟にて勤務しており、毎月第２・４水曜日には緩和ケア病棟見学会を実施しています。お気軽に参加してください。

**緩和ケア見学会**

毎月第２と第４水曜日
10時より開催

問合せ：がん相談支援センター
地域医療連携室

## 趣味…ガーデニング



色とりどりのアジサイ





アサギマダラとフジバカマ

私たち二人の共通の趣味はガーデニングです。休日は、花を眺め育てることを楽しみにしています。そして、太陽のもと、風を感じ、鳥や虫の声に季節の変化を感じてリフレッシュしています。



大根島産のボタン





過保護に育ててます、レイニーブルー

## 令和８年度『看護師特定行為研修入講式』

2026年９月24日、看護師特定行為研修入構式を行いました。受講者は当院の職員２名で、院長より入構許可書を受け取り、これから約１年間の研修を受けます。



内容：「動脈血液ガス分析関連（・直接動脈穿刺法による採血・橈骨動脈ラインの確保）」

※当院は、特定行為研修を修了した看護師が複数在籍しています。





## コラム

2026年９月より、岩国出身の宇野千代さんをモデルとした連続テレビ小説が始まりました。宇野さんの実家は錦帯橋を渡った横山地区にあり、ドラマでは度々、この錦帯橋が登場します。春は桜、夏は川や海、秋は紅葉、冬は雪景色が美しい風光明媚な岩国…当院はそんな町にある病院です。

今後共、岩国医療センターをよろしくお願い致します。



## 当院で開催するイベント

### 市民公開講座のご案内

当院では年に数回、市民公開講座を開催しております。多くの方のご参加をお待ちしております。

テーマ：岩国地域の緩和ケアについて
開催日：2026年11月14日（土）
時　間：10：00～11：30
対　象：どなたでも参加できます



### 『ほっとサロン虹』のご案内

開催日：11月20日「緩和ケア病棟見学ツアー」
12月18日「痛みについて考えてみよう」
時　間：14：00～15：00
対　象：がん患者さんとご家族
（院外の方も参加できます）



### 日本医療マネジメント学会開催




日本医療マネジメント学会 第25回山口県支部学術集会を開催します。

テーマ：人材とともに描く未来像
～つなぐ・つくる・そだてる医療マネジメント～

会　期：2026年11月21日（土）13:00～17:00
内　容：①一般演題発表、②特別講演「人材とともに描く未来像～山口県の医師確保の現況～」、③シンポジウム
参加対象：山口県内の保健・医療・福祉関係者

※いずれも詳細は当院のホームページで確認していただきますようお願いします。

岩国医療センター 各項目〇〇〇〇 検索

# 令和8年 熊本地震における支援活動



令和８年７月 28 日 16 時 27 分頃、熊本県で地震が発生しました。

## DMAT 隊

**熊本県からの派遣要請を受け、厚生労働省 DMAT 事務局から要請が出され、当岩国医療センターの DMAT 隊が第１陣として７月 30 日午前、出発しました。**

当院出発時には、田中屋院長の励ましの言葉とエールが送られました。
派遣先は熊本県南活動拠点本部（熊本労災病院）です。

メンバー：宮内 崇（救急科医長）、吉村一徳（看護師）、荒神一博（薬剤師）、浦浪美華（看護師）の４名




本部ミーティングの様子



当院出発



病院支援の様子…支援の調整、不足物資の確認や情報整理など



避難所訪問…避難者の健康チェックや状況の把握など



水を運んでいる様子



県南圏域活動拠点本部



避難所にて…脈拍・血圧測定、問診、服薬、感染予防など

## 医療班



**第２陣 当院医療班は、８月 18 日から 22 日まで医療支援活動を行ってきました。**

われわれ５名は国立病院機構の医療班として派遣されました。８月 18 日に熊本入りし、翌 19 日から３日間、県南圏域活動拠点本部指示のもと、八代市内の避難所の巡回に従事しました。発災から３週間経過していたこともあって、どの避難所も秩序立って運営されていました。それぞれの専門性を活かせるような場面には遭遇しませんでしたが、与えられた任務を全うすることで僅かながらお役に立てたのではと考えています。

22 日の帰途、車内は『医療班が活躍できない現状こそ、被災地が落ち着きつつあるよい兆し』との意見で一致しました。被災者の方々が１日でも早く地震前の生活を取り戻せるよう、心よりお祈り申し上げます。また、関連部署の職員の皆様、派遣をご支援いただきありがとうございました。

記：荒田 尚



21日 活動最終日に



当院出発

メンバー：
荒田 尚（医師）
藤井 幸恵（看護師）
松永 大輝（看護師）
柴崎 殊子（薬剤師）
岡野 なつき（事務）の５名

今月の表紙は DMAT 隊・医療班の出発時の様子です。